

文化財と技術

第2号

2002年5月

文化財と技術の研究会

目 次

≡研究論考≡

福島県内出土古墳時代金工遺物の研究

－ 筑内古墳群出土馬具・武器・装身具等、真野古墳群 A 地区 20 号墳出土金銅製双魚佩の研究復元製作－

(復元研究プロジェクトチーム) …………… 1

第一部 復元研究の目指すもの

- 〔1〕 復元の企画 (森 幸彦) …………… 1
- 〔2〕 古代遺物復元研究の未来とその手法 (鈴木 勉) …………… 9
- 〔3〕 復元研究対象遺物の選定と研究課題 (鈴木 勉) …………… 14
- 〔4〕 ものづくりの立場から見た復元研究の体制について (押元信幸) …………… 22
- 〔5〕 筑内古墳群出土遺物の自然科学的調査
(菅井裕子・渡辺智恵美・平尾良光・榎本淳子・早川泰弘) …………… 27

第 2 部 復元研究の経過

- 馬具の復元 …………… 36
- 〔6〕 筑内 37 号横穴墓出土馬具から復元される馬装について (桃崎祐輔) …………… 36
- 〔7〕 古墳時代金属装木製鞍の復元 (古谷 毅) …………… 75
- 〔8〕 筑内 37 号横穴墓出土雲珠・辻金具の鍛造技術について (山田 琢) …………… 84
- 〔9〕 筑内 37 号横穴墓出土杏葉と鏡板について (鋳の製作と組立) (山田 琢) …………… 103
- 〔10〕 筑内 37 号横穴墓出土鉄製轡の復元製作 (山田 琢) …………… 109
- 〔11〕 筑内 37 号横穴墓出土飾帯金具の復元について (伊藤哲恵) …………… 129
- 〔12〕 筑内 37 号横穴墓出土杏葉・鏡板の吊金具の復元製作 (伊藤哲恵) …………… 135
- 〔13〕 筑内 37 号横穴墓出土縮金具の帯金具と帯先金具の復元製作 (伊藤哲恵) …………… 137
- 〔14〕 筑内 37 号横穴墓出土馬具の鉄地金銅張りの復元工程 (依田香桃美) …………… 139
- 【筑内 37 号横穴墓出土馬具金具類・製作工程企画表】 (依田香桃美) …………… 167
- 〔15〕 筑内 37 号横穴墓出土鞍・縮金具の復元について (高橋正樹) …………… 176
- 〔16〕 筑内 37 号横穴墓 木製鞍・鐙の想定復元製作 (小西一郎・鈴木 勉) …………… 183
- 〔17〕 出土しない敷物、紐、革製品を復元する (押元信幸) …………… 200
- 〔18〕 筑内 37 号横穴墓出土馬具／復元馬具の調整・組立について (押元信幸) …………… 205
- 〔19〕 筑内 37 号横穴墓出土馬具の調整・組立について (山田 琢) …………… 209
- 大刀の復元 …………… 216
- 〔20〕 筑内 6 号・26 号横穴墓出土大刀の構造と復元案 (菊地芳朗) …………… 216
- 〔21〕 筑内 6 号横穴墓出土大刀の鉄地銀被せの技術について (押元信幸) …………… 223
- 〔22〕 筑内 26 号横穴墓出土大刀の復元経過について (押元信幸) …………… 227
- 〔23〕 筑内 6 号横穴墓出土大刀鞘と柄の製作 (小西一郎) …………… 233
- 〔24〕 筑内 6 号横穴墓出土大刀の柄の紐巻きについて (五味 聖) …………… 235

| | |
|---|-----|
| 刀子の復元 | 236 |
| 〔25〕 筑内21号横穴墓出土刀子と装具の復元について (清喜裕二) | 236 |
| 〔26〕 筑内21号横穴墓出土刀子の鞘・柄の製作工程 (五味 聖) | 241 |
| 矢の復元 | 243 |
| 〔27〕 筑内 6 号横穴墓出土矢の復元について (清喜裕二) | 243 |
| 〔28〕 筑内 6 号横穴墓出土鉄鏃と矢の製作技術 (山田 琢) | 246 |
| 耳環の復元 | 257 |
| 〔29〕 筑内古墳群出土銅芯銀箔張り鍍金耳環復元製作実験 (高橋正樹) | 257 |
| 銅鏡の復元 | 262 |
| 〔30〕 筑内37号横穴墓出土銅鏡の復元について (押元信幸) | 262 |
| 〔31〕 筑内37号横穴墓出土銅鏡の鑄造復元工程 (長谷川克義) | 264 |
| 金銅製双魚佩の復元 | 266 |
| 〔32〕 真野古墳群 A 地区20号墳出土金銅製双魚佩 (甲) の復元製作 (松林正徳) | 266 |
| 〔33〕 真野古墳群 A 地区20号墳出土金銅製双魚佩 (乙) の復元製作 (黒川 浩 鈴木 勉) | 279 |
| 〔34〕 真野古墳群 A 地区20号墳出土金銅製双魚佩のワッシャーと目玉を復元する (依田香桃美) | 282 |
| 〔35〕 真野古墳群 A 地区20号墳出土金銅製双魚佩の鉾と組立について (山田 琢) | 292 |
| 第 3 部 復元研究から何が見えるか | |
| 〔36〕 鉄地金銅張り技術の復元作業から見えること (依田香桃美) | 297 |
| 〔37〕 古代の分業と復元研究過程の分業について (押元信幸) | 310 |
| 〔38〕 復元研究プロジェクトチームの運営について (鈴木 勉) | 312 |
| 〔39〕 復元研究を終えて (押元信幸) | 318 |
| 〔40〕 まほろんの復元展示 (鈴木 勉) | 321 |
| 〔41〕 あとがき (森 幸彦) | 324 |

≡文化財報告≡

| | |
|-----------------------------------|-----|
| 一里段 A 遺跡の工事中立会に係る記録報告 (今野 徹・伊藤典子) | 329 |
| 法正尻遺跡65号住居跡の縄文土器 (松本 茂) | 341 |
| 文化財データベースについて | |
| ーその 1 基本構造と遺跡データベースについてー (藤谷 誠) | 345 |

≡研究論考≡

福島県内出土古墳時代金工遺物の研究

一 茨内古墳群出土馬具・武具・装身具等、

真野古墳群 A 地区 20 号墳出土金銅製双魚佩の研究復元製作一

復元研究プロジェクトチーム

| | |
|--------------------------|-------------------|
| 工芸文化研究所 | 鈴木 勉 |
| 松林彫刻所 | 松林 正徳 |
| 黒川彫刻 | 黒川 浩 |
| 工芸作家 | 小西 一郎 |
| Lemi's Metalwork Studio | 依田香桃美 |
| 東京芸術大学美術学部 | 長谷川克義 |
| 東京芸術大学美術学部 | 押元 信幸 |
| 東京芸術大学美術学部 | 山田 琢 |
| ambi ARTJEWELLERY&CRAFTS | 高橋 正樹 |
| 鍛金作家 | 伊藤 哲恵 |
| 文化財と技術の研究会 | 五味 聖 |
| 東京国立博物館 | 古谷 毅 |
| 筑波大学歴史・人類学系 | 桃崎 祐輔 |
| 宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室 | 清喜 裕二 |
| 福島県立博物館 | 菊地 芳朗 |
| 福島県文化財センター白河館 | 森 幸彦 |
| (財)元興寺文化財研究所 保存科学センター | 菅井 裕子 渡辺智恵美 |
| 東京国立文化財研究所 保存科学部 | 平尾 良光 榎本 淳子 早川 泰弘 |

〔23〕 筑内 6 号横穴墓出土大刀鞘と柄の製作

小 西 一 郎

1 材料と工程

1) 鞘

材料：桧木材（柾目）

- ① 製作図から寸法を割り出した。製作図は押元氏が作成した。
- ② 桧木柾目板を割り、分割面を外側に組み、紐で巻いて保存した（写真1）。
- ③ 反り曲がりを削り取った。
- ④ 刀身を桧木材の分割面に写し取った。幅・厚さを決め、長さは2mm長くした。
- ⑤ 刀身の厚さの1/2だけ彫った。
刀身に朱肉を少し塗り、2枚の鞘材を合わせ、刀身を挟み込んで当たりを見た。
桧木肌に薄く朱肉がつくので、ついたところを彫った。
- ⑥ 鞘材を貼り合わせ、角を削って丸みをつけた。

2) 柄

材料：朴材

- ① 柄は壺木で作った（写真15, 16）。
- ② 深さ140ミリ幅8ミリから2ミリの勾配の付いた穴を削り出すことは出来なかった。
- ③ そこで、鋼で刀身と同じ形状の焼きこてを作り、これを焼いて壺木の柄に差し込んだところ簡単に柄材が凹んで行った。
- ④ テストを5回ほど試した結果、炭化した木のカスを取除くことは必要だが、3回にわけて焼きこてを差しこむことで概ね所要の形状の穴を得ることができた。
- ⑤ 焼きこては木の木目の柔らかい方に曲がって入ってしまうので、大きめに木取る必要がある。柄を付けてから刀身と柄が真っ直ぐになるように削ることになる。

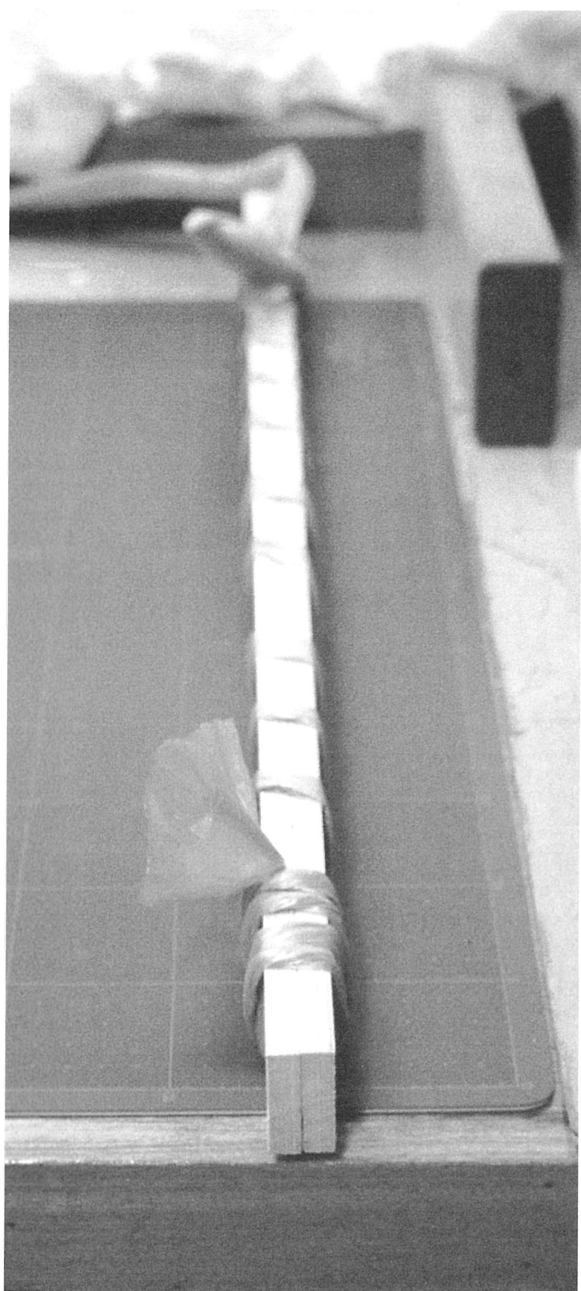


写真1 鞘 分割面を外側にして紐を巻く

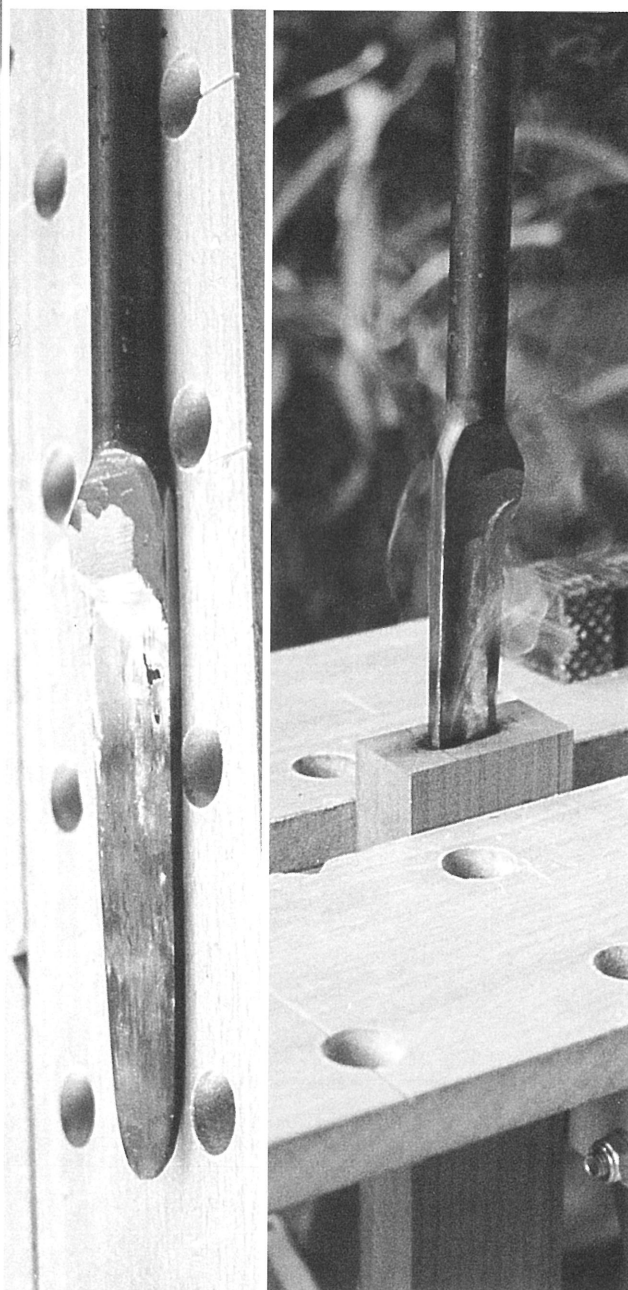


写真2、3 柄 茎と同じ焼きこてを焼いて差し込む

文化財と技術 第2号

2002年5月25日印刷

2002年5月31日発行

編集 森 幸彦・鈴木 勉

発行 文化財と技術の研究会

代表 鈴木 勉

発行所 特定非営利活動法人 工芸文化研究所

理事長 鈴木 勉

東京都品川区上大崎 1-9-4 (〒141-0021)

印刷所 株式会社山川印刷所

福島市庄野字清水尻 1-10 (〒960-2153)